

令和5年8月13日

令和5年台風第7号に関する説明

この資料は、8月13日12時現在に入手可能な予測資料を用いて作成した説明資料です。
最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。



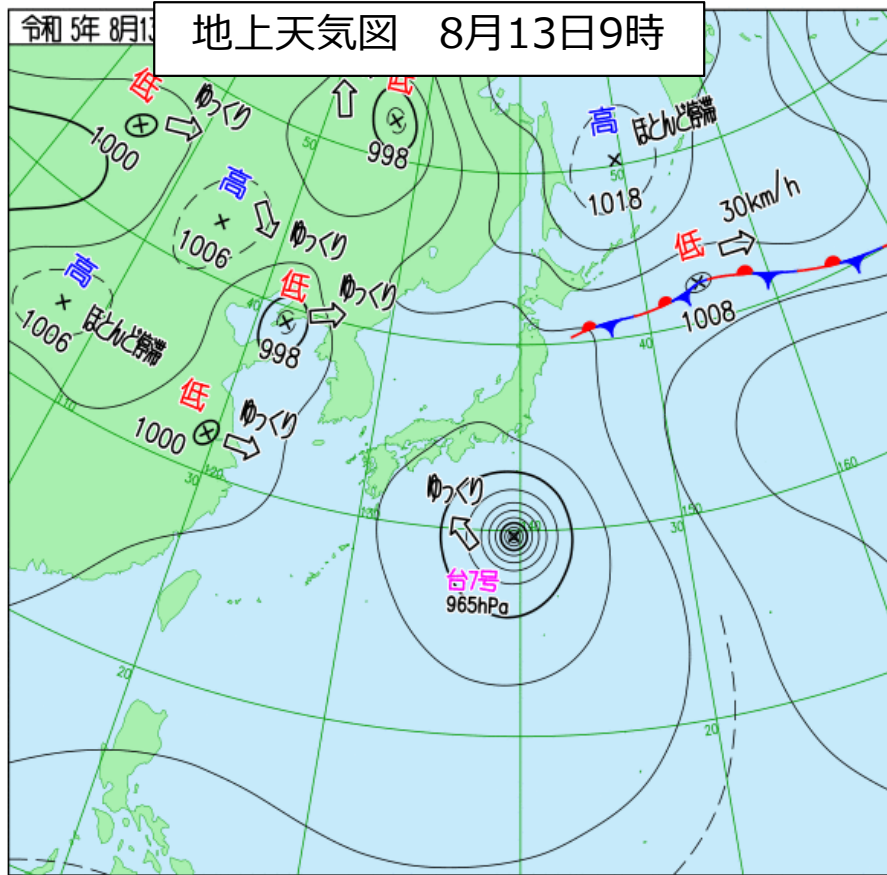
京都地方気象台

台風第7号の進路と影響のポイント

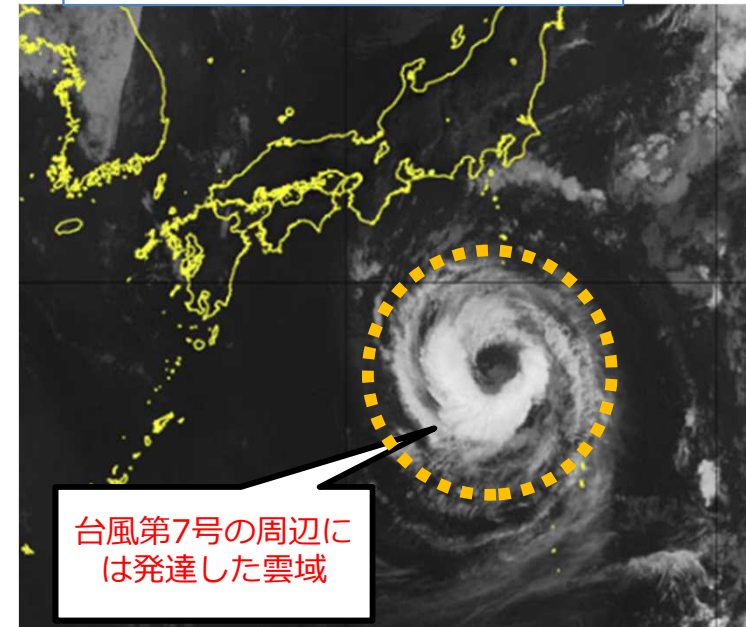
- 強い台風第7号は、13日09時現在、八丈島の南にあって北西に進んでいる。その後も北上を続け、15日には近畿地方にかなり接近し、近畿から東海地方に上陸するおそれ。京都府には15日昼過ぎから夕方に最も接近する見込み。台風の動きが遅いため、影響が長時間におよぶおそれ。
- 14日夜のはじめ頃には強風域に入り、15日昼頃には暴風域に入る見込み。15日昼頃から夜にかけて、非常に強い風が吹くおそれ。
- 15日は台風本体の雨雲がかかるため、広範囲で大雨のおそれ。雨のピークは15日日中の見込み。
- 14日から次第に波が高くなり、15日はしける見込み。
- 平常時の潮位が高い時期となっており、15日は台風の接近と満潮時間（12時51分）が重なるため、更に潮位が高くなる見込み。
- 京都府では台風第7号の影響で、警報級の「風、雨、波、高潮」の可能性もある。特に、「風、雨」は可能性が高い見込み。
15日を中心に大荒れの天気が予想されるため、不要不急の外出は控えて下さい。

◆ 常に最新の気象情報をご利用ください。

13日9時の気圧配置と台風の実況

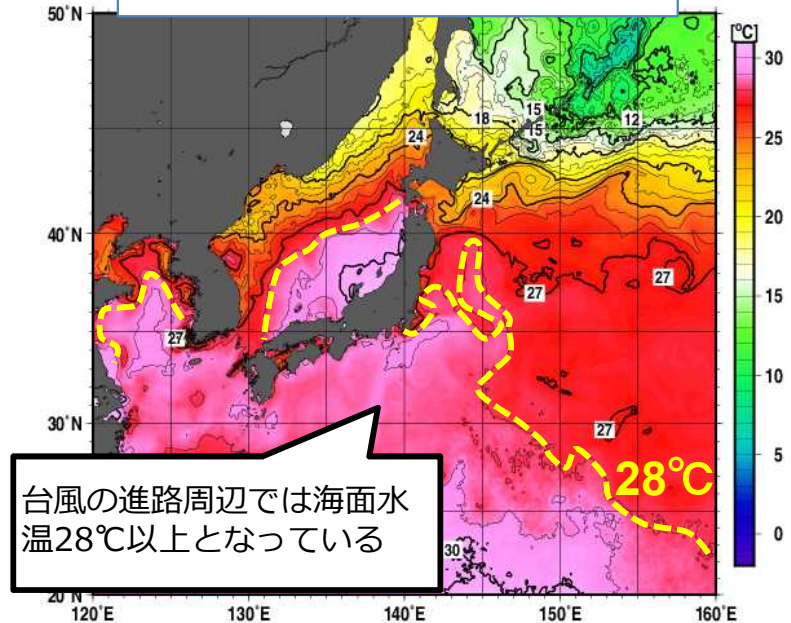


衛星赤外画像 8月13日9時

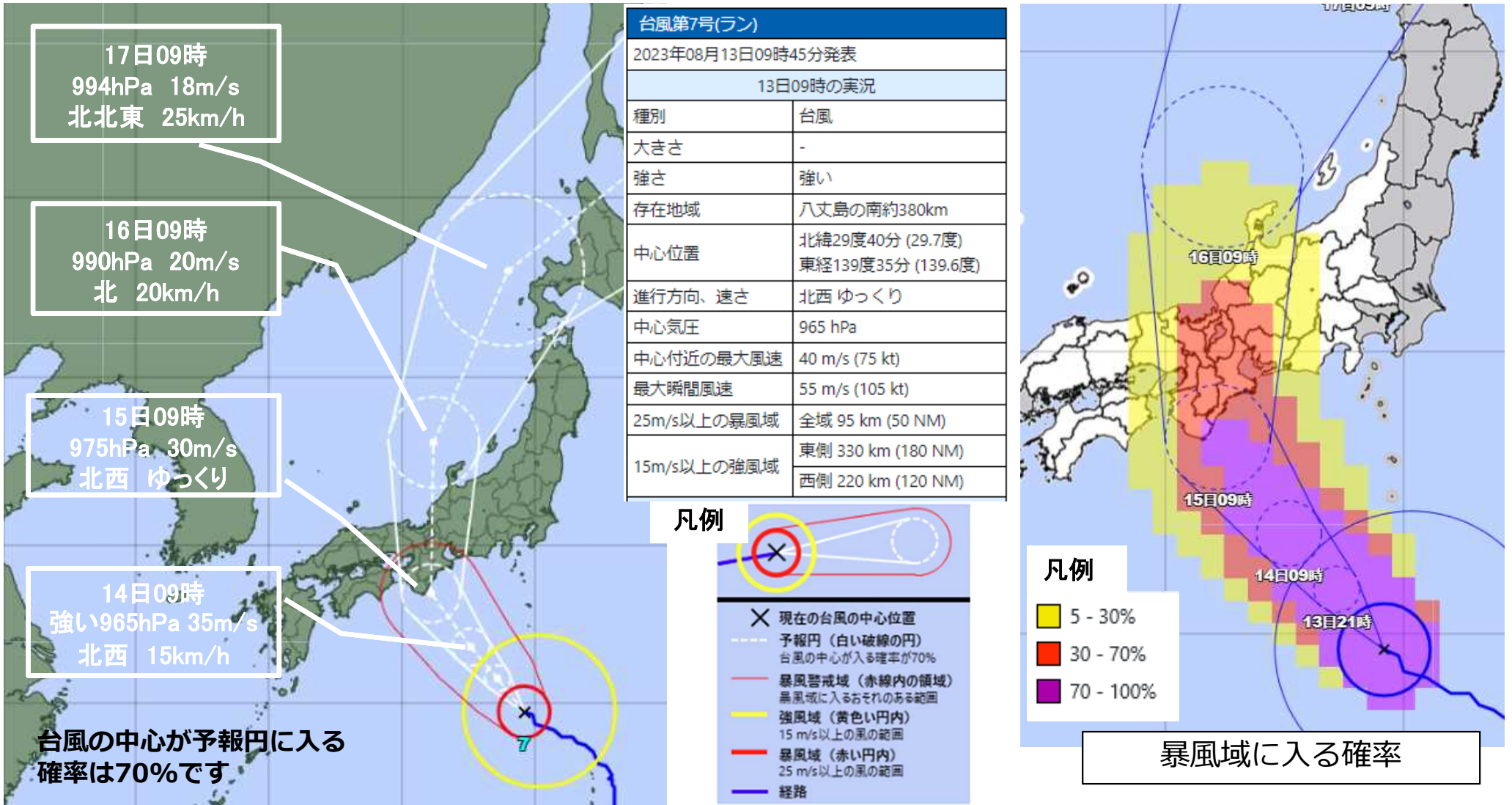


- 13日9時現在、強い台風第7号は八丈島の南にあってゆっくりとした速さで北西に進んでいる。台風周辺には発達した雲域が見られる。
- 台風の進路周辺では海面水温が28℃以上となっており、強い勢力を維持したまま本州付近へ接近する見込み。

海面水温実況図 8月12日



台風第7号 13日9時現在の進路予想（予報円の中心を通った場合）



- ❑ 強い台風第7号は、潮岬の南東海上を北西に進んだ後、次第に進路を北に変えて、暴風域を伴ったまま15日には近畿地方にかなり接近し、近畿から東海地方に上陸するおそれ。
- ❑ 京都府には15日昼過ぎから夕方に最も接近する見込み。

台風第7号による京都府への影響の見通し

		13日				14日								15日				
		12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時	
		昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く					
台風最接近																	最接近	
京都府北部	大雨(浸水) (ミリ)	20	20	20	20	5	10	5	1	20	20	20	20					
	大雨(土砂)																	
	雷	注	注	注	注					注	注	注	注					
	暴風 (メートル)	陸上	7 ↗	7 ↗	6 ↗	3 ↗	4 ↗	3 ↗	7 ↗	8 ↓	8 ↓	12 ↓	12 ↓	12 ↓				
		海上	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	10 ↗	10 ↓	10 ↓	15 ↓	15 ↓	15 ↓				
	波浪 (メートル)	1	1	1	1	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2.5	3	3					
高潮 (メートル)	0.7	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6						
京都府南部	大雨(浸水) (ミリ)	20	20	20	20	10	10	1	1	20	20	20	20					
	大雨(土砂)																	
	雷	注	注	注	注					注	注	注	注					
	暴風 (メートル)	6 ↓	5 ↓	4 ↓	3 ↓	3 ↓	3 ↓	5 ↓	7 ↓	12 ↓	12 ↓	12 ↓	15 ↓					

■ 警報級 ■ 注意報級

注意報、警報の発表のタイミングは、注意報級、警報級の現象となる3～6時間前となる。

早期注意情報（警報級の可能性）

京都府の早期注意情報（警報級の可能性）											
2023年08月13日11時 京都地方気象台 発表											
南部では、14日までの期間内に、暴風警報を発表する可能性がある。 北部では、14日までの期間内に【高】及び【中】はない。今後の情報に留意。											
京都府南部		13日		14日			15日	16日	17日	18日	
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24					
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[高]	[中]	-	-	
	1時間最大	20	20	15以下	15以下	20					
	3時間最大	30	30	25以下	25以下	30					
	24時間最大	50以下									
暴風(雷)	警報級の可能性	-	-	-	-	[中]	[高]	-	-	-	
	最大風速	9以下	9以下	9以下	9以下	15					
京都府北部		13日		14日			15日	16日	17日	18日	
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24					
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[高]	[中]	-	-	
	1時間最大	20	20	15以下	15以下	20					
	3時間最大	30	30	25以下	25以下	30					
	24時間最大	50以下									
暴風(雷)	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[高]	-	-	-	
	最大風速	陸上	9以下	9以下	9以下	9以下	12				
		海上	9以下	9以下	9以下	10	15				
波浪	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	-	-	-	
高潮	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	-	-	-	

凡例

■ [高] ■ [中]

ま と め

京都府には15日昼過ぎから夕方に最も接近する見込み。

■風

14日夜のはじめ頃には強風域に入り、15日昼頃には暴風域に入る見込み。14日は**暴風警報**を
発表する可能性があり、特に15日は**暴風警報**を発表する可能性が高い。

■雨

15日は台風本体の雨雲がかかるため、**大雨警報**を発表する可能性が高い。雨の降り方次第では
16日まで長引くおそれがある。

■波

14日から次第に波が高くなり、15日はしける見込みで、**波浪警報**を発表する可能性がある。

■高潮

15日は台風の接近と満潮時間（12時51分）が重なるため、**高潮警報**を発表する可能性がある。

■15日は大荒れの天気となる見込み。不要不急の外出は控えてください。

防災事項

- 暴風、低い土地の浸水、土砂災害、河川の増水や氾濫に警戒。
- 高波、高潮に十分注意。

最大 24時間 降水量	期間	14日12時～15日12時
		北部 100～150ミリ 南部 100～200ミリ
	期間	15日12時～16日12時
		北部 100～150ミリ 南部 100～200ミリ

最大風速 (最大瞬間 風速)	期間		15日
	北部	陸上	20から24メートル (30から40メートル)
		海上	25から29メートル (35から45メートル)
南部		20から24メートル (30から40メートル)	

波(最大)	期間	15日
		4メートル

今回の台風に備えて

- ◆ 今回の台風第7号の影響で、京都府では大雨による土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、暴風や高波、高潮などのおそれがあります。お住いの地域がどのような災害が起こりやすいかハザードマップ等で確認するなど、台風への十分な備えをお願いします。
- ◆ 台風第7号は15日に近畿地方へかなり接近する見込みです。気象台が発表する**警報・注意報などの最新の気象情報、キキクル（危険度分布）を普段以上にこまめに確認**するとともに、**市町村からの避難に関する情報等に留意**してください。
- ◆ 京都府では、15日を中心に台風第7号の影響で、**交通機関が大きく乱れる可能性があります。**イベントや遠出の予定のある方は、予定を変更するなど、**交通機関からの情報に留意してください。**また、**山や海などのレジャーの際でも気象情報や交通情報に留意してください。**

最新の台風情報等に留意してください。

本資料に関する気象台への問い合わせ先：あらかじめお知らせしている自治体回線または報道回線に、ご連絡願います。

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

- 気象警報・注意報（大雨、洪水、暴風（雪）、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>

- キキクル(危険度分布)（どこで土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示）

土砂キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land>

浸水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund>

洪水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood>

- 各地の気象情報（気象概況や大雨の見通し）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=information>

- 台風情報（台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>

- 指定河川洪水予報（国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測）

<https://www.jma.go.jp/bosai/flood/>

- 土砂災害警戒情報（命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに厳重な警戒を呼びかける）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>

- 最新の気象データ（雨雲の動き（降水・雷・竜巻ナウキャスト）、今後の雨、雨や風の観測データ、衛星画像）

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

<https://www.jma.go.jp/bosai/kaikotan/>

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/pre_rct/index24_rct.html

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/wind_rct/index_mxwsp.html

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=himawari>

- 14か国語による防災気象情報の提供

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>

- 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））

https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/point.pdf



気象庁HPのバナーをご利用ください。



気象庁防災情報
Twitter

@JMA_bousai

気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。

5段階の警戒レベルと防災気象情報

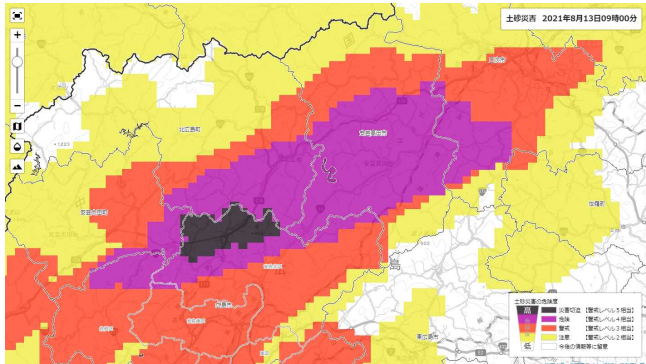
警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	キキクル (危険度分布)	相当する警戒レベル	
5	命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	災害切迫	5相当	
<警戒レベル4までに必ず避難!>						
4	・危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報	高潮警報 高潮特別警報	危険 氾濫危険情報	4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	※ 大雨警報 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒 氾濫警戒情報	3相当
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 大雨注意報 洪水注意報	高潮注意報	注意 氾濫注意情報	2相当
1	災害への心構えを高める	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警報級の可能性)			

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

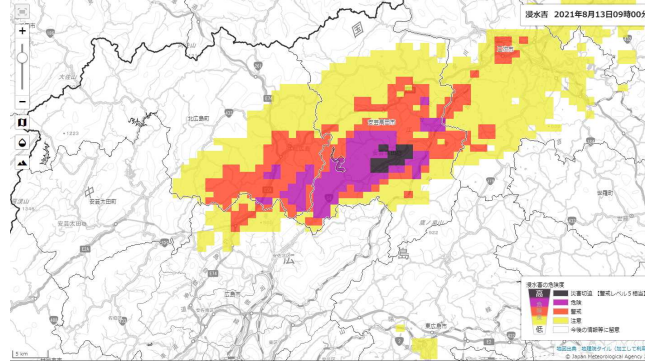
土砂キキクル

大雨警報（土砂災害）の危険度分布



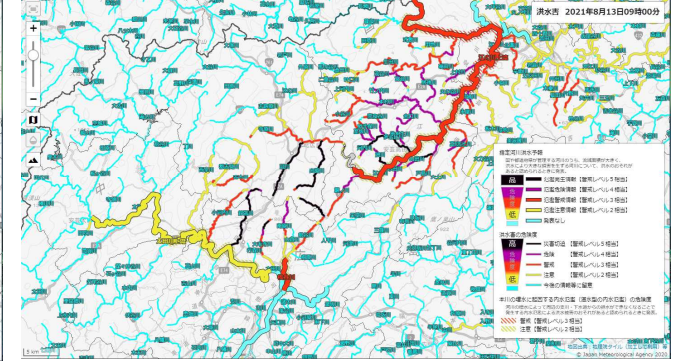
浸水キキクル

大雨警報（浸水害）の危険度分布



洪水キキクル

洪水警報の危険度分布



**「紫」が出現した段階で
速やかに安全な場所に避難する判断を！**

「キキクル」の「災害切迫（黒）」は、大雨による災害が**すでに発生**している可能性が高い状況であり、災害が発生する前に**いつも出現するとは限りません**。このため、「黒」を待つことなく、「**紫**」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

「キキクル（危険度分布）」を活用して早めの避難を！

国土交通省 気象庁 Japan Meteorological Agency

ENGLISH Other Languages 文字サイズ変更 標準 大

Twitter 気象庁防災情報 気象庁 気象庁 気象庁 YouTube 気象庁 気象庁 気象庁 気象庁

Google 提供 検索

ホーム 防災情報 各種データ・資料 地域の情報 知識・解説 各種申請・ご案内

コンテンツの開覧方法について（よくお寄せいただく質問）

ここをクリック

防災情報 天気 キキクル (危険度分布) 大雨・台風 地震・火山

被災地域等への支援情報

この雨大丈夫？そんな時 **キキクル** 大雨・洪水警報の危険度分布

火山登山者向けの情報提供ページ

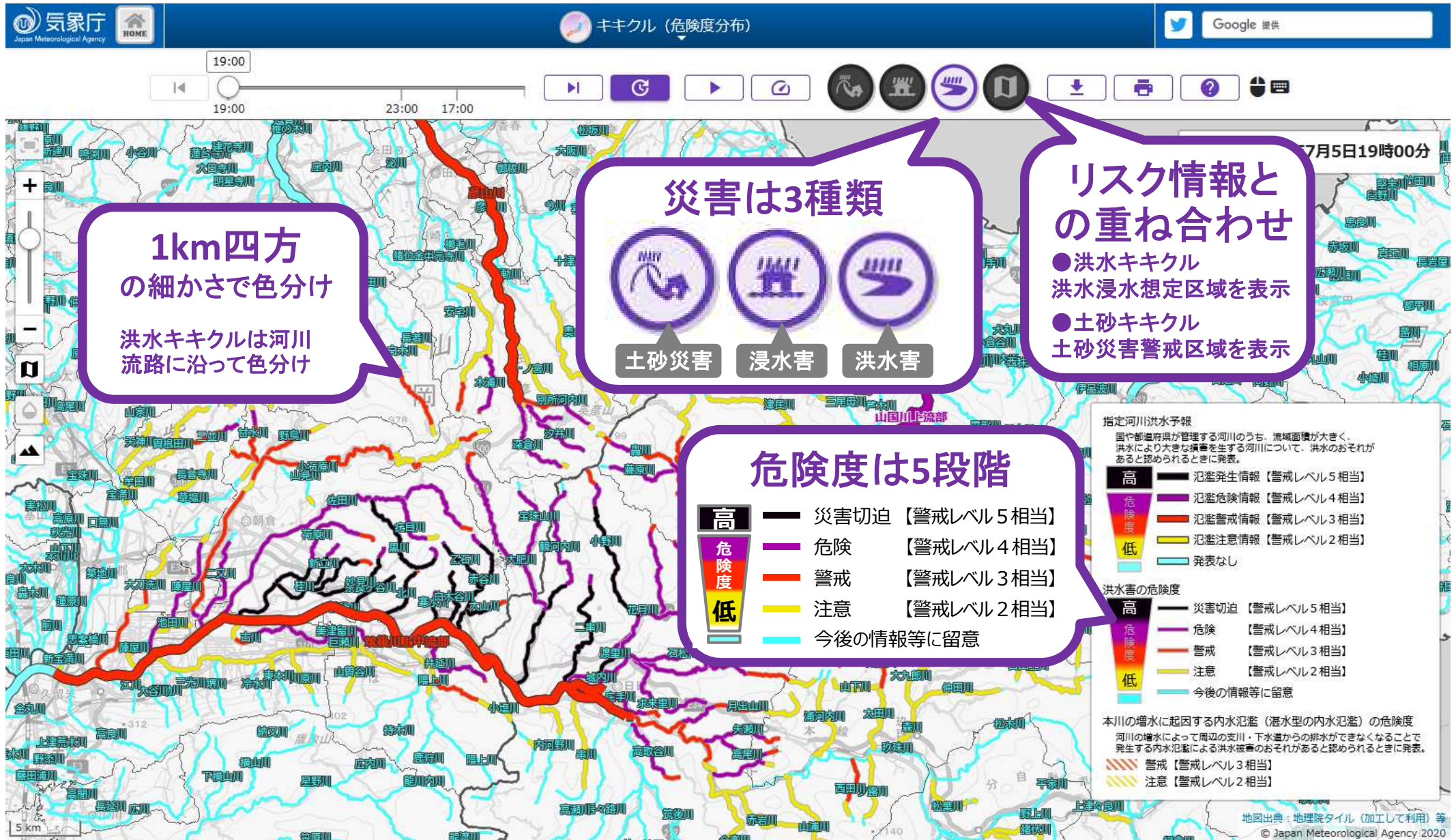
津波から身を守るために **津波フラッグ** 海岸付近でこの津波フラッグを見たらすぐに避難

または、このバナーをクリック



「キキクル（危険度分布）」のイメージ

- 雨による**災害の危険度**を地図上に**リアルタイム表示**（気象庁ホームページ上で**10分ごと**に更新）
- **土砂災害・浸水害・洪水害**それぞれの危険度を**5段階**に色分けして表示



自分がいる場所の「キキクル」を確認しましょう



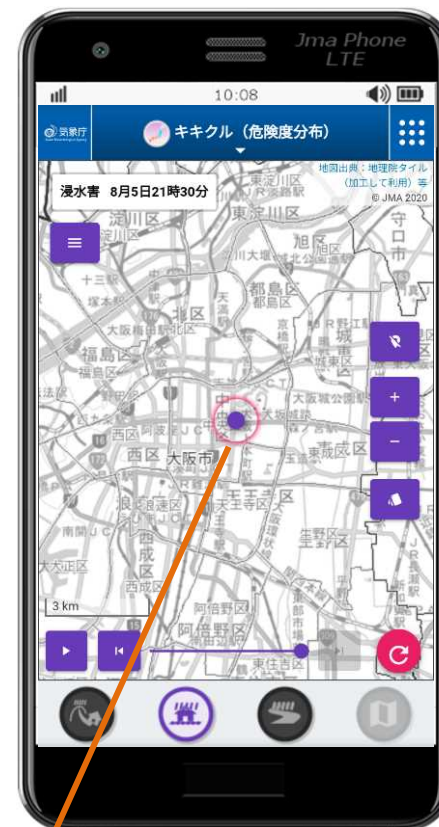
① トップページのキキクル (危険度分布) をタップ



② 下にスクロールしてキキクルの「詳しく見る」をタップ



③ 「現在位置取得ボタン」をタップ



④ 自分のいる場所の危険度が表示

スマートフォン等の位置情報機能を活用し、自分がいる場所の「キキクル」を確認しましょう。

土砂キキクル
(大雨警報 (土砂災害) の危険度分布)



浸水キキクル
(大雨警報 (浸水害) の危険度分布)



洪水キキクル
(洪水警報の危険度分布)



暴風による災害への備え

参考資料 7

- 暴風が実際に吹き始めてからは、屋外での行動は命に危険が及びます。
- 特に土砂災害や洪水、高潮のおそれがある区域では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。
- 風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。

〇〇市の警報・注意報（今後の推移）

		XXXX年XX月XX日XX時XX分発表										備考・関連する現象
〇〇市		〇〇日							〇〇日			
		0-3	3-6	6-9	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6		
暴風	陸上	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	海上	△	△	△	△	△	△	△	△	△		

▲ 暴風警報
 ▲ 陸上では昼過ぎから風速20メートル
 ■ 暴風警報の期間
 ■ 強風注意報の期間

平均風速 (m/s) おおよその時速	人への影響 走行中の車	屋外・樹木の様子	建造物	おおよその瞬間風速 (m/s)
20~25 ~約90km/h	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム（被覆材）が広範囲に破れる。	30
25~30 ~約110km/h			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設現場が崩落する。	40
30~35 ~約125km/h				

35~40 ~約140km/h	走行中のトラックが横転する。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	50
40~ 約140km/h~			住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	60

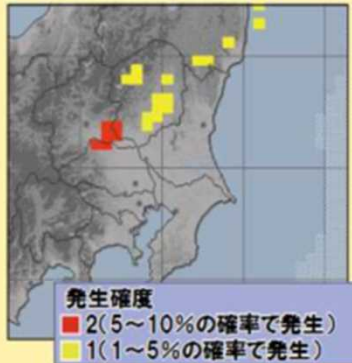
〈風が強まる前の家の対策〉

※ 内閣府政府広報オンラインより。

※ 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。
 ※ 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。
 ※ 詳細は気象庁ホームページを御確認ください。(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_index.html)

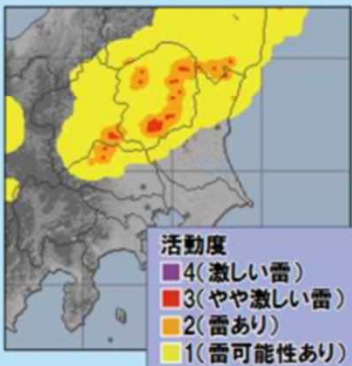
- ▶ 台風から離れた地域でも、竜巻などの激しい突風や落雷に注意が必要。
- ▶ 竜巻発生確度ナウキャストや雷ナウキャストなどの防災気象情報を活用し、発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には身を守るための行動を。

竜巻発生確度ナウキャスト



竜巻などの激しい突風のおそれがある場所や確率を表します。

雷ナウキャスト



雷の起きる場所や激しさを表します。

「竜巻」が間近に迫ったら・・・

すぐに身を守るための行動をとってください!!

屋外では 頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする。

屋外では 物置や車庫・プレハブ(仮設建築物)の中は危険。

屋外では シャッターを閉める。

屋内では 家の1階の窓のない部屋に移動する。

屋内では 窓やカーテンを閉める。

屋内では 窓から離れる。大きなガラス窓の下や周囲は大変危険。

屋外では 電柱や太い樹木であっても倒壊することがあり、危険。

屋内では 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。

日本版改良藤田スケールにおける階級と風速の関係

階級	風速 (3秒平均)	主な被害の状況 (参考)
JEF0	25~38m/s	・物置が横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・樹木の枝が折れる。
JEF1	39~52m/s	・木造の住宅の粘土瓦が比較的広い範囲で浮き上がったりはく離する。 ・軽自動車や普通自動車横転する。 ・針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53~66m/s	・木造の住宅の小屋組(屋根の骨組み)が損壊したり飛散する。 ・ワンボックスの普通自動車や大型自動車横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・墓石が転倒する。 ・広葉樹の幹が折損する。
JEF3	67~80m/s	・木造の住宅が倒壊する。 ・アスファルトがはく離したり飛散する。
JEF4	81~94m/s	・工場や倉庫の大規模な庇の屋根ふき材がはく離したり脱落する。
JEF5	95m/s~	・低層鉄骨系プレハブ住宅が著しく変形したり倒壊する。

風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていけないと 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始め る。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	40
	25以上 30未満	～110km						
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
	35以上 40未満	～140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	
	40以上	140km～					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～ 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
(表現しない)	500km未満
大型 (大きい)	500km以上～800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

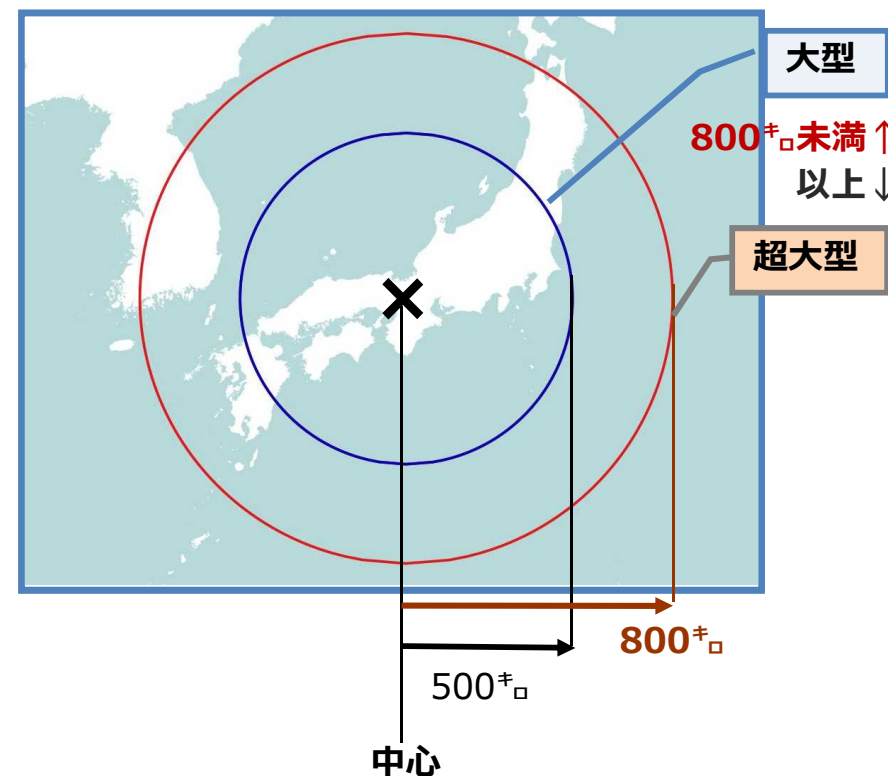
強さの階級分け

階級	最大風速 (10分間平均)
(表現しない)	33m/s(64ノット) 未満
強い	33m/s (64ノット) 以上～44m/s (85ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85ノット) 以上～54m/s (105ノット) 未満
猛烈な	54m/s (105ノット) 以上

例えば「強い台風」と発表している場合、

- ・強風域の半径が500km未満
- ・中心付近の最大風速は33～43m/s
- ・暴風域を伴っていることを表します。

台風の大きさと日本列島との比較



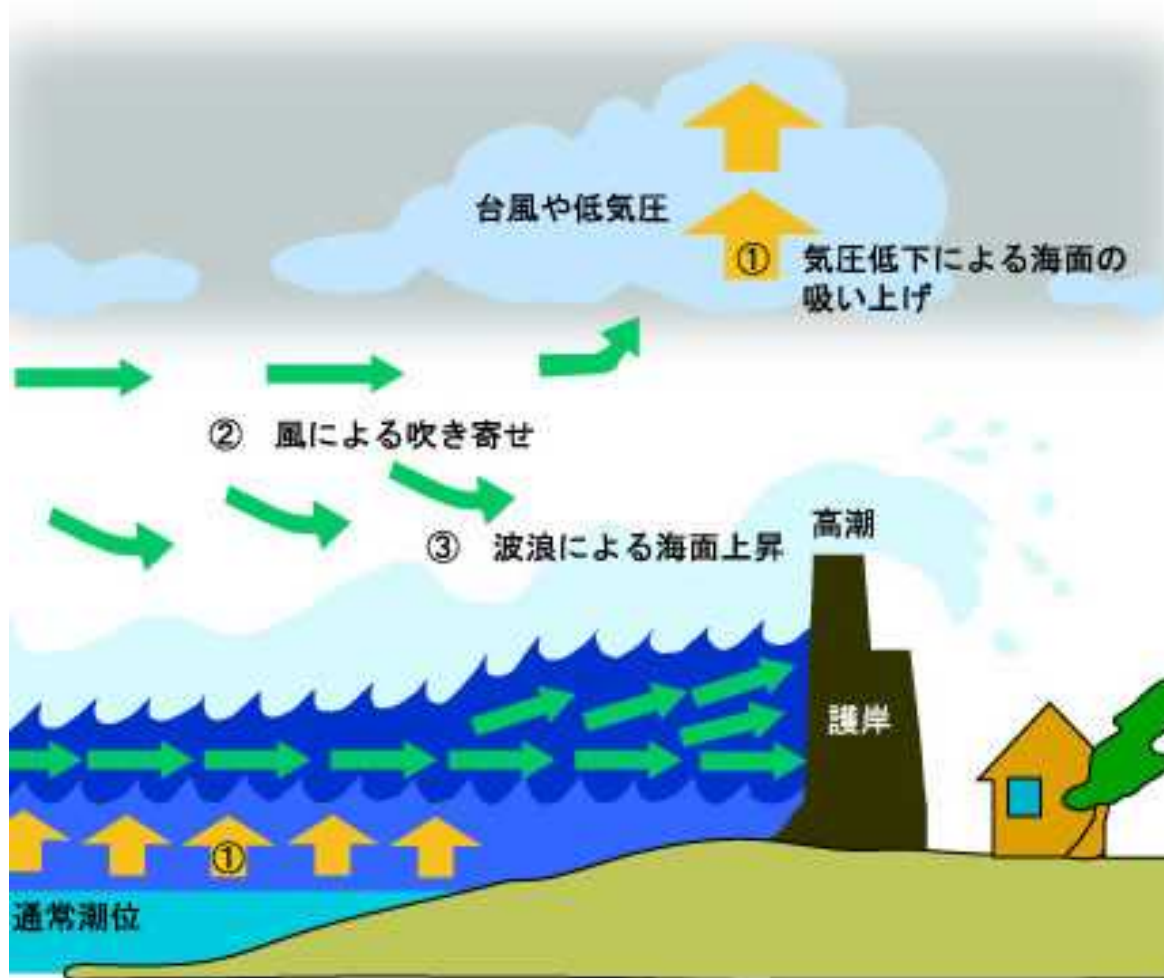
なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

台風により、

- ①気圧低下により海面の上昇
- ②風による吹き寄せ
- ③波浪による海面の上昇

の相乗効果により高潮の可能性が高くなります。

特に台風の進行方向の右側では風も強くなり、海面の上昇が起きやすく、特にV字型の湾では奥に行くほど海面上昇が助長されます。



天気予報では、1 日を 3 時間ごとに区切って、表現しています。

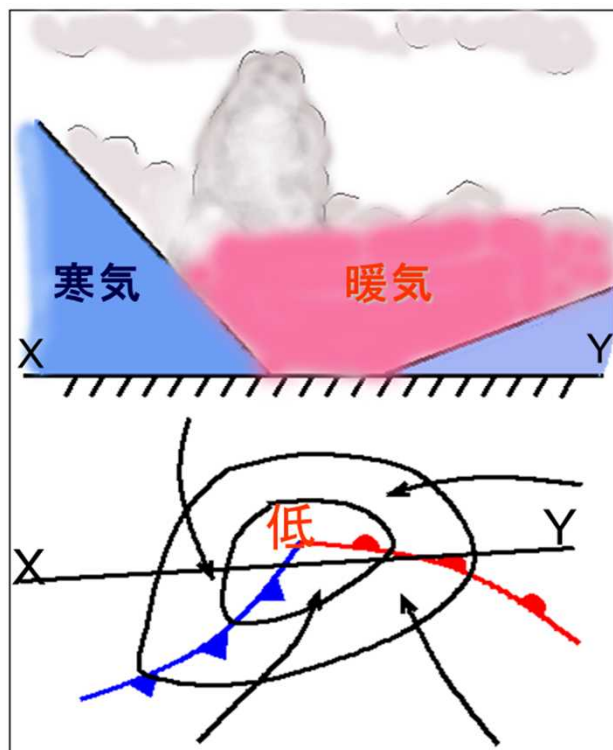
時間帯	一日の時間細分		
00:00～03:00	未明	午前中	
03:00～06:00	明け方		
06:00～09:00	朝		
09:00～12:00	昼前	午後	日中
12:00～15:00	昼過ぎ		
15:00～18:00	夕方		
18:00～21:00	夜のはじめ頃	夜	
21:00～24:00	夜遅く		

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ**低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上**のものを「台風」と呼びます。

温帯低気圧と熱帯低気圧の違い

温帯低気圧

寒気・暖気の温度差をエネルギーに発生・発達



熱帯低気圧

熱帯の大量の暖かく湿った空気をエネルギーに発生・発達

X-Yの線で切った断面図

